

令和6年度「学区防災のありかたを考える」特別委員会
第2回 議事録 2024/7/7

日 時 令和6年7月7日(日)18:00~20:00

場 所 志津南まちづくりセンター 会議室

出席者(敬称略)

委員長 四方道治	委員 北村昌彦	委員 猪口俊輔
委員 白瀧 明	委員 大脇正美	委員 高田篤司
サポートメンバー 高岡昭義、佐藤恵子		

以下議事内容

▽志津南小学校防災倉庫確認(6月30日(日)実施)をふまえて
メンバー各位の感想、気づきポイントなどを出し合い、課題を抽出

議論の概要

- ・志津南小と高徳中の防災倉庫の中身は同じか？
→いずれもサテライト基地であり中身は同等と思われる。前線基地は玉川小
- ・飲料水の備蓄が今はできていないが、どう考えるか？
→水については、考え方を決める必要がある。
個人がやるべき
地域(まち協、町内会)がやるべき
市がやるべき
地震が来た時に、有る水が引き出せないことがあり得る。
自治体によるが、耐震性の防火水槽というものがある。
草津市では、4か所の「前線基地」(玉川小、老上小、草津第2小、笠縫小)に耐震性の防火水槽が設置されている。
「サテライト基地」である志津南小には耐震性の防火水槽はない。
(玉川小学校へ取りに行くことになる)
- ・発災して3日はどうにもならないと考えるべき。
阪神の時は3日ぐらい後に、コンビニに水などは入ってくるようになった。
- ・受援計画を作らなければならない。
物は来たが、人がいないと配ることができない。また、受け入れ体制が無いと人がいても機能しないということが起こりうる。
- ・ボランティアについては、社会福祉協議会がボランティアセンターを立ち上げる。
早くて1週間、遅くて1か月でボランティア組織が立ち上がる。
- ・発災直後は、いずれにしても助けは来ないと考えて、72時間をどう動くかを地区防災計画で決めておくことが必要。
- ・志津南小学校の防災倉庫の備蓄品の数量(毛布 100、保温シート 400、給水袋 400、アルファ米 2,000)からすると想定されている避難者数は 100~400 人となる。
(体育館の収容もその程度か)
この地域で何人が避難するのか？
アセスメントは建物でされている。
避難所の想定人数からすると、在宅避難または縁故避難が可能な人が多数を占めることが必要となる。そのためには、家の中での家具固定、家の中での逃げ場所の確保、通電火災(停電復旧時の火災)への対策、常備薬の確保、消火器置き場所のルール、防災倉庫の備蓄品だけでは賄えない水や食料野確保等々、「自助」がどこまでできているかが基本であり重要となる。

同時に、避難所が確実に開設・設営できること。市の職員が来られなくても、「共助」として自分たちで避難所の開設・設営・運営ができる必要がある。
避難所の設営マニュアルは、市作成のものがあるが、その確認、訓練が必須である。
高齢者や健康でない人への配慮・対応も当然必要となる。

以上の議論を整理すると、

発災から72時間の対応として、以下に取り組むというのが本日の結論

- ① 避難所の開設・設営・運用について、共助として自分たちでできるレベルを目指して避難所の現状整理、マニュアル等の確認、訓練計画の立案実行
- ② 自助でやるべきことを整理して、チェックシートを作成
それを配布して、どこまでできているかを調査する、住民への意識付けとして活用する
自助に対して、学区全体としてすべきことを整理して実行へつなげる

高田委員から、以下の資料を提示いただいた。(ホームページに本議事録と共にアップします)

- ・若草岡本西地区、追分南地区それぞれが宅地造成前にどんな土地だったかがわかる資料
- ・志津南学区の地震リスクマップ
- ・災害時の応援協定締結状況(民間事業所との協定)
- ・志津南小学校防災倉庫の備蓄品一覧等の情報
- ・「わが家の防災メモ」など、上記②のチェックシートの原型となりうる資料

▽次回予定

- ・次回委員会 8月4日(日)18:00～ 志津南まちづくりセンター
- ・次回委員会では、上記①、②に関する議論をもう少し深めた上で、②のチェックシートの原型を作成する。
- ・7月末までを目途に、
現場現物確認の第2回目として、(可能なら)草津市危機管理課に同行いただき、
前線基地である玉川小学校の防災倉庫の確認を実施する方向で調整する。

以上